H20．6．1　福井

学園祭で選挙啓発活動を行うＣＥＰＴのメンバーら＝31日、福井市の福井大文京キャンパス

学園祭参加者に「選挙へ関心を」

県青年隊　福井大でブース

学生の選挙や政治に対する関心を高めようと、県内の若者でつくる県明るい選挙推進青年活動隊「ＣＥＰＴ（セプト）」が三十一日、福井市の福井大文京キャンパスで開かれている学園祭に参加し、啓発活動を行った。

近年の選挙では、二十歳代の投票率が極端に低い状態が続いている。若者らがたくさん集まる機会をとらえ、選挙への参加を呼び掛けるため、今回初めて福井大の学園祭に啓発ブースを設置。十代、二十代の女性メンバー七人が参加した。

選挙に関するクイズを行い、学生らが解答用紙を実際に使う投票箱に模擬投票したほか、政治や選挙に対する意見をスケッチブックに書いてもらい、撮影した写真をパネルに張った。選挙のアンケートも行い、協力した学生らに啓発グッズや手作りクッキーをプレゼントした。

ＣＥＰＴの代表、滝波彩子さん（三）は「選挙のときだけでなく、普段からの啓発が重要。同世代が訴えることで選挙を身近に考えてもらえれば」と話していた。

H20．6．1　日刊県民福井

選挙知ろう

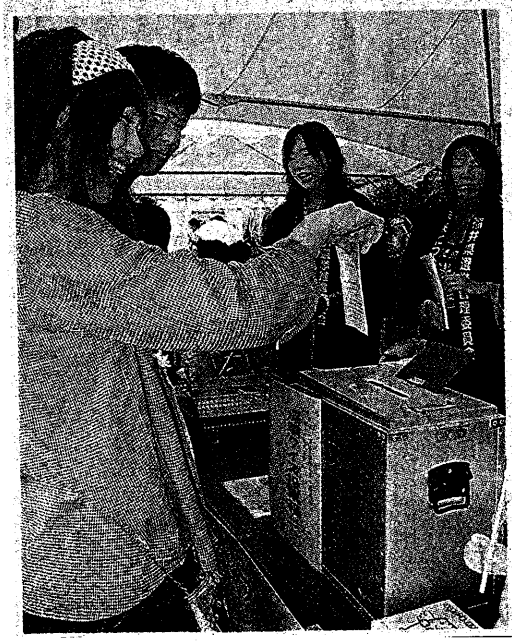
青年活動隊が啓発

若者の選挙啓発ボランティアグループ「県明るい選挙推進青年活動隊ＣＥＰＴ（セプト）」は三十一日、大学祭開催中の福井大文京キャンパスで選挙の啓発活動を行った。

来場者に「選挙クイズ」などに参加してもらい、「投票当日は何時から投票できる？」などの設問で解答用紙を本物の投票箱に投じさせた。一人目の投票者は実際の投票日と同様に投票箱が空であることも確認した。

パネルでは、昨年七月の参院選の県全体の投票率は63％あったが、ある選挙区では三十歳未満の投票率は35％を下回ったことなどを掲示。同セプトの滝波彩子代表（三）は「難しく考えがちな選挙を、身近に感じて気軽に投票参加してもらいたい」と話していた。

（長谷川寛之）



選挙クイズの解答用紙を投票箱に入れる参加者＝いずれも福井市の福井大学文京キャンパスで